

3 次の同次対称式 $P(a, b, c)$ の不等式について

やなぎた いつお
柳田 五夫

§1. はじめに

$P(a, b, c)$ を 3 次の同次対称多項式とする。任意の負でない実数 a, b, c に対して不等式 $P(a, b, c) \geq 0$ が成り立つための必要十分条件が Hoo Joo Lee により証明されている。

定理 2 (SD 3) $P(a, b, c)$ は 3 次の同次対称多項式とする。任意の負でない実数 a, b, c に対して不等式 $P(a, b, c) \geq 0$ が成り立つための必要十分条件は

$P(1, 1, 1), P(1, 1, 0), P(1, 0, 0) \geq 0$ が成り立つことである。

この定理により、不等式 $P(a, b, c) \geq 0$ が成立するかどうかは簡単にチェックできることになる。定理の初等的な証明と適用例を紹介したい。

§2. 和の記号 \sum_{cyclic} の定義

定義 和の記号 \sum_{cyclic} を導入する。 $P(x, y, z)$ を

3 変数 x, y, z の関数とすると

$$\sum_{cyclic} P(x, y, z)$$

$$= P(x, y, z) + P(y, z, x) + P(z, x, y)$$

で定義される。

たとえば $\sum_{cyclic} x^3 = x^3 + y^3 + z^3,$

$$\sum_{cyclic} x^2y = x^2y + y^2z + z^2x,$$

$$\sum_{cyclic} xy^2 = xy^2 + yz^2 + zx^2,$$

$$\sum_{cyclic} xyz = xyz + yzx + zxy = 3xyz$$

§3. 証明

まず、3 次の cyclic 同次多項式 $P(a, b, c)$ に対する不等式 $P(a, b, c) \geq 0$ の成立をチェックする “Cyclic inequality of Degree 3” (CD 3 定理) を証明しておく。これは P. K. Hung [1] により証明されているが、初等的な証明を示す。

3 次の cyclic 同次多項式 $P(a, b, c)$ は

$$P(a, b, c)$$

$$= m \sum_{cyclic} a^3 + n \sum_{cyclic} a^2b + p \sum_{cyclic} ab^2 + qabc$$

と表せる。ただし、 $P(a, b, c)$ が 3 次の cyclic 同次多項式であるとは、ある a, b, c の 3 次式 $Q(a, b, c)$ を用いて $P(a, b, c) = \sum_{cyclic} Q(a, b, c)$ と書ける場合をいう。

定理 1 (CD 3) $P(a, b, c)$ は 3 次の cyclic 同次多項式とする。任意の負でない実数 a, b, c に対して不等式 $P(a, b, c) \geq 0$ が成り立つための必要十分条件は

(i) $P(1, 1, 1) \geq 0$

かつ

(ii) 任意の負でない実数 a, b に対して

$$P(a, b, 0) \geq 0 \text{ が成り立つ}$$

ことである。

[証明] 必要性は明らかであるから十分性を示す。

(i) $P(1, 1, 1) \geq 0$

かつ

(ii) 任意の負でない実数 a, b に対して

$$P(a, b, 0) \geq 0 \text{ が成り立つ}$$

とする。このとき

任意の負でない実数 a, b, c に対して

$$P(a, b, c)$$

$$= m \sum_{cyclic} a^3 + n \sum_{cyclic} a^2b + p \sum_{cyclic} ab^2 + qabc \geq 0$$

が成り立つことを示す。

$P(1, 1, 1) \geq 0$ から

$$3m + 3n + 3p + q \geq 0$$

任意の負でない実数 a, b に対して

$$P(a, b, 0) \geq 0 \text{ が成り立つから}$$

$$P(1, 0, 0) = m \geq 0, P(1, 1, 0) = 2m + n + p \geq 0$$

一般性を失うことなく $a = \min(a, b, c)$ と仮定できるから、 $b - a = u \geq 0, c - a = v \geq 0$ とおき、

$$\begin{aligned}
& b=a+u, c=a+v \text{ を } P(a, b, c) \geq 0 \text{ に代入すると} \\
& m[a^3+(a+u)^3+(a+v)^3] \\
& +n[a^2(a+u)+(a+u)^2(a+v)+(a+v)^2a] \\
& +p[a(a+u)^2+(a+u)(a+v)^2+(a+v)a^2] \\
& +qa(a+u)(a+v) \geq 0 \\
\iff & (3m+3n+3p+q)a^3+(3mu+3nu+3pu \\
& +qu+3mv+3nv+3pv+qv)a^2 \\
& +(3mu^2+nu^2+pu^2+2nuv+2puv \\
& +quv+3mv^2+nv^2+pv^2)a \\
& +m(u^3+v^3)+nu^2v+puv^2 \geq 0
\end{aligned}$$

この不等式を $Aa^3+Ba^2+Ca+D \geq 0$ とおくと

$$A=3m+3n+3p+q \geq 0,$$

$$\begin{aligned}
B &= 3mu+3nu+3pu+qu+3mv+3nv+3pv+qv \\
&= (3m+3n+3p+q)(u+v) \geq 0
\end{aligned}$$

$3m+n+p=m+(2m+n+p) \geq 0, u^2+v^2 \geq 2uv$ であるから

$$\begin{aligned}
C &= (3m+n+p)(u^2+v^2)+(2n+2p+q)uv \\
&\geq (3m+n+p) \cdot 2uv+(2n+2p+q)uv \\
&= (6m+4n+4p+q)uv \\
&= \underbrace{(3m+3n+3p+q)}_{\geq 0} + \underbrace{(3m+n+p)}_{\geq 0} uv \geq 0,
\end{aligned}$$

$D=m(u^3+v^3)+nu^2v+puv^2=P(u, v, 0) \geq 0$ したがって、不等式 $Aa^3+Ba^2+Ca+D \geq 0$ は成り立つ。 ■

定理 2 (SD 3) $P(a, b, c)$ は 3 次の同次対称多項式とする。任意の負でない実数 a, b, c に対して不等式 $P(a, b, c) \geq 0$ が成り立つための必要十分条件は

$P(1, 1, 1), P(1, 1, 0), P(1, 0, 0) \geq 0$ が成り立つことである。

[証明] 必要性は明らかであるから十分性を示す。

$P(1, 1, 1), P(1, 1, 0), P(1, 0, 0) \geq 0$ が成り立つとする。このとき、CD 3 定理から任意の負でない実数 a, b に対して

$$P(a, b, 0) \geq 0$$

が成り立つことを示せばよい。

$P(a, b, c)$ は 3 次の同次対称多項式であるから

$$\begin{aligned}
& P(a, b, c) \\
&= m \sum_{cyclic} a^3 + n \sum_{cyclic} a^2b + p \sum_{cyclic} ab^2 + qabc
\end{aligned}$$

とおくと、 $n=p$ である。

仮定の条件式 $P(1, 1, 0), P(1, 0, 0) \geq 0$ から $m+n \geq 0, m \geq 0$ を得る。

$a \geq 0, b \geq 0$ のとき

$$a^3+b^3-ab(a+b)=(a-b)^2(a+b) \geq 0$$

が成り立つことを使うと、 $a \geq 0, b \geq 0$ のとき

$$\begin{aligned}
P(a, b, 0) &= m(a^3+b^3)+n(a^2b+ab^2) \\
&\geq mab(a+b)+n(a^2b+ab^2) \\
&= (m+n)ab(a+b) \geq 0 \quad \blacksquare
\end{aligned}$$

§4. 使用例

次に、SD 3 定理が使える不等式をいくつか紹介したい。

例題 1 a, b, c が負でない実数のとき、次の不等式を証明せよ。

$$9(a+b)(b+c)(c+a) \geq 8(a+b+c)(ab+bc+ca)$$

3 次の同次対称式の不等式なので、SD 3 定理から $(a, b, c) = (1, 1, 1), (1, 1, 0), (1, 0, 0)$ のとき成り立つことをチェックすればよい。

以降の例題では下線部を省略する。証明は次のようにできる。

[証明] 差をとると

$$\begin{aligned}
& 9(a+b)(b+c)(c+a) - 8(a+b+c)(ab+bc+ca) \\
&= a^2b+a^2c+b^2a+b^2c+c^2a+c^2b-6abc \\
&= a(b^2-2bc+c^2)+b(c^2-2ca+a^2) \\
&\quad +c(a^2-2ab+b^2) \\
&= a(b-c)^2+b(c-a)^2+c(a-b)^2 \geq 0
\end{aligned}$$

よって

$$\begin{aligned}
& 9(a+b)(b+c)(c+a) \\
&\geq 8(a+b+c)(ab+bc+ca) \quad \blacksquare
\end{aligned}$$

例題 2 (Schur) a, b, c が負でない実数のとき、次の不等式を証明せよ。

$$a^3+b^3+c^3+3abc \geq ab(a+b)+bc(b+c)+ca(c+a)$$

証明は柳田[2]問題 4 を参照。

例題 3 (United Kingdom 1999)

p, q, r は正の実数で、 $p+q+r=1$ を満たすとき、次の不等式を証明せよ。

$$7(pq+qr+rp) \leq 2+9pqr$$

同次化(Homonization)すると

$$\begin{aligned}
& 7(pq+qr+rp) \leq 2+9pqr \\
\iff & 7(pq+qr+rp)(p+q+r) \\
& \leq 2(p+q+r)^3+9pqr
\end{aligned}$$

証明は次のようにできる。

【証明】 同次化(Homonization)して

$$\begin{aligned}
 & 7(pq+qr+rp) \leq 2+9pqr \\
 \iff & 7(pq+qr+rp)(p+q+r) \leq 2(p+q+r)^3+9pqr \\
 \iff & 7[p^2(q+r)+q^2(r+p)+r^2(p+q)]+21pqr \\
 & \leq 2(p^3+q^3+r^3) \\
 & +6[p^2(q+r)+q^2(r+p)+r^2(p+q)]+21pqr \\
 \iff & p^2(q+r)+q^2(r+p)+r^2(p+q) \leq 2(p^3+q^3+r^3) \\
 & \text{最後の不等式は、次のように示せる。} \\
 & 2(p^3+q^3+r^3)-(p^2q+p^2r+q^2r+q^2p+r^2p+r^2q) \\
 & = (p^3+q^3-p^2q-pq^2)+(q^3+r^3-q^2r-qr^2) \\
 & \quad + (r^3+p^3-r^2p-rp^2) \\
 & = (p-q)^2(p+q)+(q-r)^2(q+r)+(r-p)^2(r+p) \\
 & \geq 0
 \end{aligned}$$

例題 4 (Serbia 2008)

a, b, c は正の実数で、 $a+b+c=1$ を満たすとき、次の不等式を証明せよ。

$$a^2+b^2+c^2+3abc \geq \frac{4}{9}$$

同次化(Homonization)すると

$$\begin{aligned}
 & a^2+b^2+c^2+3abc \geq \frac{4}{9} \\
 \iff & 9(a+b+c)(a^2+b^2+c^2)+27abc \\
 & \geq 4(a+b+c)^3
 \end{aligned}$$

証明は次のようにできる。

【証明】 同次化(Homonization)して

$$\begin{aligned}
 & a^2+b^2+c^2+3abc \geq \frac{4}{9} \\
 \iff & 9(a+b+c)(a^2+b^2+c^2)+27abc \\
 & \geq 4(a+b+c)^3 \\
 \iff & 9(a^3+b^3+c^3)+9[ab(a+b)+bc(b+c) \\
 & \quad +ca(c+a)]+27abc \\
 & \geq 4(a^3+b^3+c^3)+12[ab(a+b)+bc(b+c) \\
 & \quad +ca(c+a)]+24abc \\
 \iff & 5(a^3+b^3+c^3)+3abc \\
 & \geq 3[ab(a+b)+bc(b+c)+ca(c+a)]
 \end{aligned}$$

例題 2(Schur の不等式)より

$$\begin{aligned}
 & a^3+b^3+c^3+3abc \\
 & \geq ab(a+b)+bc(b+c)+ca(c+a)
 \end{aligned}$$

が成り立つから

$$\begin{aligned}
 & 2(a^3+b^3+c^3) \\
 & \geq ab(a+b)+bc(b+c)+ca(c+a)
 \end{aligned}$$

を示せばよい。(例題 3 の証明中の最後の不等式参照)

例題 5 (2014 年 第 24 回・日本数学オリンピック本選) 不等式

$$\begin{aligned}
 & \frac{a}{1+9bc+k(b-c)^2} + \frac{b}{1+9ca+k(c-a)^2} \\
 & + \frac{c}{1+9ab+k(a-b)^2} \geq \frac{1}{2}
 \end{aligned}$$

が $a+b+c=1$ を満たす任意の非負実数 a, b, c に対して成り立つような実数 k の最大値を求めよ。

$k > 0, a > 0, b > 0, c > 0$ として、不等式が成り立つような十分条件を調べてみる。コーシー・シュワルツの不等式の変形(柳田[2]参照)

$b_1, b_2, \dots, b_n > 0$ のとき、

$$\frac{a_1^2}{b_1} + \frac{a_2^2}{b_2} + \dots + \frac{a_n^2}{b_n} \geq \frac{(a_1+a_2+\dots+a_n)^2}{b_1+b_2+\dots+b_n}$$

等号は、 $\frac{a_1}{b_1} = \frac{a_2}{b_2} = \dots = \frac{a_n}{b_n}$ のときに限る。

を使うと

$$\begin{aligned}
 & \sum_{cyclic} \frac{a}{1+9bc+k(b-c)^2} \\
 & = \sum_{cyclic} \frac{a^2}{a+9abc+ka(b-c)^2} \\
 & \geq \frac{(a+b+c)^2}{a+b+c+27abc+k\{a(b-c)^2+b(c-a)^2+c(a-b)^2\}}
 \end{aligned}$$

が成り立つから

$$\begin{aligned}
 & \frac{(a+b+c)^2}{a+b+c+27abc+k\{a(b-c)^2+b(c-a)^2+c(a-b)^2\}} \\
 & \geq \frac{1}{2}
 \end{aligned}$$

すなわち

$$1 \geq 27abc + k\{a(b-c)^2 + b(c-a)^2 + c(a-b)^2\}$$

が成り立てばよい。

同次化(Homonization)して

$$\begin{aligned}
 & (a+b+c)^3 \\
 & \geq 27abc + k\{a(b-c)^2 + b(c-a)^2 + c(a-b)^2\}
 \end{aligned}$$

3 次の同次対称式の不等式なので、SD 3 定理から $(a, b, c) = (1, 1, 1), (1, 1, 0), (1, 0, 0)$ のとき成り立つための条件を調べる。

$(a, b, c) = (1, 1, 1), (1, 0, 0)$ のときは不等式が成り立ち、 $(a, b, c) = (1, 1, 0)$ のとき成り立つ条件は $k \leq 4$ である。

したがって、 $k \leq 4$ のとき、問題の不等式が成り立つことがわかる。

⑨ 与えられた不等式に $a=b=\frac{1}{2}$, $c=0$ を代入

すると, $2 \cdot \frac{\frac{1}{2}}{1+\frac{1}{4}k} \geq \frac{1}{2}$ より $-4 < k \leq 4$ となる。

したがって, $k=4$ のとき不等式が成立することを示せば, k の最大値は 4 となる。以下, $k=4$ のとき不等式が成立することを示す。

$a > 0$, $b > 0$, $c > 0$ のときは, コーシー・シュワルツの不等式の変形を使うと

$$\begin{aligned} & \sum_{cyclic} \frac{a}{1+9bc+4(b-c)^2} \\ = & \sum_{cyclic} \frac{a^2}{a+9abc+4a(b-c)^2} \\ \geq & \frac{(a+b+c)^2}{a+b+c+27abc+4\{a(b-c)^2+b(c-a)^2+c(a-b)^2\}} \\ \text{が成り立つから} & \\ & \frac{(a+b+c)^2}{a+b+c+27abc+4\{a(b-c)^2+b(c-a)^2+c(a-b)^2\}} \\ \geq & \frac{1}{2} \end{aligned}$$

すなわち

$$\begin{aligned} 1 & \geq 27abc+4\{a(b-c)^2+b(c-a)^2+c(a-b)^2\} \\ \text{を示せばよい。同次化(Homonization)して} & \\ & (a+b+c)^3 \\ & \geq 27abc+4\{a(b-c)^2+b(c-a)^2+c(a-b)^2\} \\ & \dots\dots(*) \end{aligned}$$

を示せばよい。差をとると

$$\begin{aligned} & (a+b+c)^3-27abc \\ & -4\{a(b-c)^2+b(c-a)^2+c(a-b)^2\} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} & = a^3+b^3+c^3+3abc \\ & \quad -ab(a+b)-bc(b+c)-ca(c+a) \end{aligned}$$

例題 2 (Schur の不等式) より

$$\begin{aligned} & a^3+b^3+c^3+3abc \\ & \geq ab(a+b)+bc(b+c)+ca(c+a) \end{aligned}$$

が成り立つから, (*) を得る。

a, b, c のなかに 0 があるときは, $c=0$ と仮定すると, $a+b=1$, $a \geq 0$, $b \geq 0$ のとき

$$\frac{a}{1+4b^2} + \frac{b}{1+4a^2} \geq \frac{1}{2} \quad \dots\dots(**)$$

を示せばよい。 $a=0$ または $b=0$ のとき, (**) は成り立つから, $a > 0$, $b > 0$ とする。

$$\begin{aligned} \frac{a}{1+4b^2} + \frac{b}{1+4a^2} & = \frac{a^2}{a+4ab^2} + \frac{b^2}{b+4a^2b} \\ & \geq \frac{(a+b)^2}{a+b+4ab(a+b)} \\ & = \frac{1}{1+4ab} \end{aligned}$$

より, $\frac{1}{1+4ab} \geq \frac{1}{2}$ すなわち $1 \geq 4ab$ を示せばよい。これは $1-4ab=(a+b)^2-4ab=(a-b)^2 \geq 0$ から成り立つ。 ■

《参考文献》

- [1] P. K. Hung : Secrets in Inequalities volume 2-advanced inequalities-free chapter, GIL Publishing House
- [2] 柳田 五夫, 不等式の証明に役立つ不等式と接線の利用について, 数研通信 No. 75 (元 栃木県立佐野高等学校)